



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第55号 平成26年10月23日発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

平成26年度前期(4月~9月)センター的機能実績報告

◎オープンスクール・夏休み授業体験会関係

- オープンスクール 184人 <前年比-22人>
 <小中学部> 117人(園児児童・保護者・
 通園施設職員・担任等)
 - <高等部> 72人(生徒・保護者・担任等)
 - 夏休み授業体験会 102人<前年比-54人>
 (幼児児童生徒・保護者・担任等)
- *体験者44名(-20人) <年長:19 小6:8 中3:17>

- ・小中学校、高等部オープンスクールとも、参加者が減少しました。例年に比べ、年少年中、小4小5、中1中2の参加者が少なかったためと思われます。知的障害特別支援学級は、年々減少しており、在籍人数も減少していることも現状もあります。
- ・夏休み授業体験会は、幼児の体験者が昨年同様に人数が多かったです。中学部体験者は、昨年の半分、高等部体験者の人数は昨年の3分の2程度で、中3生で本校が第1希望の生徒は、2人でした。

◎教育相談 135回 <前年比+49回>

- 学校見学・相談 8回(幼保2小2中2高2)
- 来校相談 96回 本校(幼保12小9中31)
 分教室(中44)
- 電話・メール相談 9回(小1中8)
- プレスクール 7回(幼保1小2中4)
- 幼児の個別課題学習体験 15回(年長児4 年中児3 年少児1)

- ・桃花台学園への相談体制の関係で、中学3年生の来校相談が増えました。
- ・本校への転学や入学の対象でない児童生徒の保護者の相談が増えています。
- ・幼児の個別課題学習体験は、年少より継続体験が増えています。

◎訪問相談・支援 45回(123人) <前年比+11回 +43人>*人数はのべ人数

- 甲府市特別支援教育専門家チーム巡回相談 7回
- 特別支援教育専門家活用 2回
- 訪問相談・支援 36回
 <<内訳>> 幼保9回 (5園 40人)
 小22回 (12校 68人) **(+49人)**
 <通常の学級60人、支援学級8人>
 中5回 (3校 3人)
 <通常の学級1人、支援学級2人>

- ・甲府市の巡回相談は、個別の指導計画作成に関するもので、複数回訪問支援や関係者会議を行っています。
- ・同一の小学校で、複数の学級を複数日、参観するケースが増えています。同じような助言が続くことが多いので、助言を校内委員会等で共通理解、情報交換するように指導しています。
- ・幼稚園保育園は、同じ園から複数の幼児、あるいは同一の幼児の継続相談が多い状況です。

◎研修支援 15回 (前年比-2回)

- 校内研究会・研修会のサポート、講師 5回(小学校5)
- 連携機関関係研修会の講師 5回(病院2保育園関係2学童クラブ1)
- 教育関係諸団体のサポート、講師 2回(支援学級研究会等)
- かえで合同学習会<相談支援部、研究部主催> 3回

ほぼ例年なみ。

★「フレンズ」のバックナンバーを、ぜひHPでご覧ください。

◆◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆



山梨県立かえで支援学校
相談・支援部 (飯嶋)

甲府市東光寺2-25-1(〒400-0807)
 TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356
 URL <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>
 E-Mail sodan@kaedey.kai.ed.jp
 (相談・支援部専用アドレス)



かえで支援学校

検索

かえで合同学習会報告

○日時：2014年8月26日（火）10:00～11:45
○場所：かえで支援学校 食堂
○講師：國學院大學人間開発学部 渡邊雅俊 先生
○講演テーマ：「特別支援学校におけるキャリア教育」



<内容>

1 キャリア教育の概念

広義
・**キャリア教育**—就学から一生涯まで
例) 学習技能の習得
・**移行教育**—卒業前から卒業後
例) 就労生活に関する知識と技能の習得
・**職業教育**—職業準備教育
例) 特定の職種に関する知識と技能の習得
狭義

3 基礎的・汎用的能力

①人間関係形成・社会形成能力

ねらい：児童・生徒の協調性を育成する。
授業案：児童・生徒同士の活動を設定する。



②自己理解・自己管理能力

ねらい：児童・生徒の自信や効力感を高める。
授業案：「自分と向き合う」機会を設定する。

③課題対応能力

ねらい：児童・生徒の情報収集や問題解決力を高める。
授業案：自分で「調べる」「解決する」機会を設定する。

④キャリアプランニング能力

ねらい1：働くことに関連する知識とスキルの習得。
ねらい2：将来（卒業後）の生活イメージを作る。
授業案：卒業した後のことを一緒に考える機会を設定する。

2 キャリア教育の定義

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

↓
「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現していく若者（大人）を育てるというねらい

4 キャリア教育の実践例（埼玉県特別支援学校）

感性：芸術鑑賞、音楽鑑賞等

意思を伝える力：困ったときの支援の求め方、好きなことや得意なことの習得、施設の活用等

生活の基本技能：歯磨き、ゴミ捨て、着替え、係の仕事、挨拶、返事、動きの模倣等

卒業後の暮らしを支える力：給料の使い道、交通手段の調べ方、余暇の過ごし方の計画、調理、報告や相談、働く技能の習得等

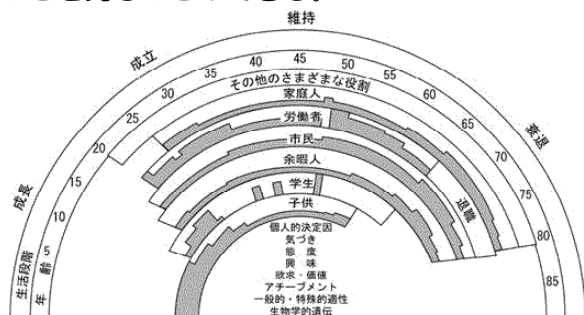
文字や数量の認識：数、重さ、広さ、文字、形、時間、文章等

人とかかわる力：自分と相手との立場や役割、感謝、人に合わせた行動等



5 ライフキャリアの虹

- 生涯における**ライフ・ロール**の各役割の始まりと終わり、相互の重なり合いを表している。
- 「自分に期待される複数の役割を統合して、**自分らしい生き方を展望し、実現していく**」ということを見ることが出来る。



資料出所：渡辺美枝子・E.L.Herr『キャリアカウンセリング入門』2001年 ナカニシヤ出版

6 課題とポイント

①障害の実態に応じた視点（観点）の設定の難しさ

→児童生徒の実態に応じたキャリア教育で育成したい力を検討し、視点を考案すること。

②進路目標の共有化

→卒業後の職業・家庭生活のイメージを本人と教師、保護者との間で一致させ、可能な限り早く明確にすること。



③自立的な学習者を育成する

→障害の程度にかかわらず、キャリア発達の最終段階は「何らかの役割と責任を果たして、他者に認められたり、社会に貢献できる」こと。

④良好な人間関係を形成する力を育てる

→卒業後の生活で**最も重要と考えられる**こと。知的障害のある青年の環境不適應の最大の要因。**3ヶ月以内**に離職率が**30%**というデータもある。

<まとめ>

- キャリア教育における学校全体の主な手続きは、4種の「**基礎的・汎用的能力**」を授業の「**視点（観点）**」として設定し、**授業の目標や学習内容、評価の基準**とすることである。
- 授業実践では、学習活動を抽出して「**キャリア発達の観点**」と関連づけ、目標設定と支援計画を練っていく。

<おわりに>

「キャリア教育」の考え方が、特別支援教育に取り入れられたのが、8年位前になります。「キャリア」というと、職業教育のイメージがありますが、この考え方を小学部の段階からどのように意識していくか、今の学習とどう関連づけていくか、本校でもずっと取り組んできました。今回は、概念の整理や実践例などをうかがい、自分たちのキャリア教育に対する考え方を再考するよい機会となりました。